

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・タスポ効果でたばこの売上が伸びており、他商品の売上にも結び付いている。男性客による弁当の購入が増加し、主力の米飯類が前年比108%と好調である。	
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・岩手・宮城内陸地震やガソリンの高騰により鈍化している客の動きが回復せず、9月の売上は前年と比べ大幅に減少している。ただし、地震直後で売上が前年比40%以上の減少となった3か月との比較では、やや良くなっている。	
	変わらない		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・景気はやや悪い状況のまま変わらない。来客数は日々減少しており、前年比では数百人規模で減少している。
			百貨店（経営者）	単価の動き	・来客数は極端に減少していないが、客単価が低下しているため売上が前年を下回っている。
			百貨店（売場担当）	お客様の様子	・食料品や生活必需品の値上がりにより、客の買い方に変化はみられず、秋物衣料も単品買いする客が目立つ。春夏に購入していない客も多く、動員をかけても効果は薄く苦戦している。一方で、当社の得意客対象の販売会では高額な毛皮などが好調に動いており、個人差が大きい。
			スーパー（店長）	来客数の動き	・ガソリンは値下がりしたものの、依然として続く光熱費や食料品の値上げが家計を圧迫し、来客数、買上点数共に減少している。
			スーパー（店長）	単価の動き	・1品単価は前年並みであるが、買上点数が減少しており、明らかに買い控えの傾向にある。
			スーパー（総務担当）	単価の動き	・9月の平均単価は野菜と鮮魚と米を除き、前年より5%強上昇しているが、買上点数は前年並みとなっている。し好品である菓子は低単価品の買上点数が増加したが、単価が3%上昇した住居関連や雑貨品は低迷している。内食化が継続しており、食料品関係は追い風が吹いている。
			コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・タスポ効果により売上は前年と比べ増加しているが、たばこ以外の売上は減少している。
			コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・繁華街エリアでの客単価の落ち込みが目立つが、全体では前年を若干下回っている状況にある。
			衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・最近はかなり涼しいが、この夏の猛暑や不景気を引きずり、客の出足が悪い。
			衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・カジュアル衣料は気温の低下という外部要因の後押しもあり、例年以上の立ち上がりを示す一方で、ビジネス衣料はセレモニー需要は好調に動いているものの、立ち上がりが遅れている。
			衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・来客数の減少に加え、買上点数も減少しており、無駄な物は買わないという傾向が続いている。
			家電量販店（店長）	販売量の動き	・客単価が低下しており、売上を確保するために販売量を増やす必要がある。
			乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車が売れない分、車検が前年を大きく上回っていることから、営業マンの仕事の80%は車検入庫の促進と保険関連業務となっている。売上全体では前年を上回るものの先がみえない状況にある。
			住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・6月の閉店セールでは目玉商品の売行きが良かったが、それ以降も目玉商品がなければ客の購買意欲を引き出すことは困難な状況にある。
			その他専門店〔呉服〕（経営者）	お客様の様子	・物価の高騰に伴い家計は圧迫され、消費者の生活は苦しくなっている。
			観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前年の設備投資により商品価値を高めたことから、辛うじて前年並みを保っているが、地域全体はいまだかつてないほどの不振に陥っている。
			都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・気候が安定しているが、シャッター通りである駅前商店街の様子に大きな変化はなく、買物客は相変わらず少ない状況にある。

やや悪くなっている	遊園地（経営者）	来客数の動き	・郊外に開店した大型商業施設の影響はほとんどなく、天候が悪いなかでも来客数は前年をわずかに上回っている。
	その他住宅[リフォーム]（従業員）	販売量の動き	・1年で最も需要が高まる時期に差し掛かっているが、売上が回復する兆しがみえない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・ファッションビルの撤退や近隣の大型商業施設の開店が影響して商店街全体の売上は20%以上減少している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・郊外の大型商業施設開業により、明らかに商店街の来客数が減少しており、各店の売上に影響を及ぼしている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・9月下旬は季節はずれの寒い日が続いていることから、店側が天候の変化に追いついていない状況にある。秋物バーゲンを実施している店もあるが、客の反応は鈍い。
	一般小売店[スポーツ用品]（経営者）	販売量の動き	・客層は小、中学生主体であるが、親の経済状態が悪いため祖父や祖母の援助により買物をしている様子が見える。
	一般小売店[医薬品]（経営者）	来客数の動き	・極端に悪かった8月と比べれば、来客数はやや回復しているものの、前年や3か月前との比較では悪化している。
	一般小売店[雑貨]（企画担当）	来客数の動き	・来客数、買上点数が減少しており、個人消費は悪化している。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・中旬まで蒸し暑い日が多かったため、Tシャツなどのカットソーの売上が伸びたが、単品買いが多い。ヤング、キャリア層の来店が大幅に減少している。
	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・駅前や郊外地区に大型商業施設が開店した影響により、スーパーブランドの売上が一段と落ち込んでいる。また、百貨店の顔であった呉服の売上が減少している。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・郊外の大型商業施設の開店以降、土、日曜日を中心に来客数は明らかに減少している。客の価格に対するシビアな傾向は続いており、ダブルパンチ状態である。
	百貨店（販促担当）	お客様の様子	・けん引商品である特選ブランドやラグジュアリーブランドの売上が低迷し、前年比80%の状況が続いている。
	百貨店（経営者）	お客様の様子	・食料品の買上点数の減少が継続しており、秋冬物の衣料も単品買いが多い状況にある。
	スーパー（経営者）	単価の動き	・来客数が安定し、1品単価が上昇傾向にあるが、買上点数が減少している。
	スーパー（経営者）	販売量の動き	・来客数は変わらないが、1人当たりの買上点数が減少し、無駄な物は買わないという客の状況が顕著になっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年並みで維持しているが、買上点数が前年比98%、1品単価が99%と低下している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・最近、家庭の冷蔵庫の中に余計な物が入っており、空に近い状態になっていると聞いている。客は、当日使う食材以外は買わない傾向にあり、ますます買い控えが進んでいる。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・7月にオープンした競合店の影響で、来店客数が10%減少している。また、客単価も前年比で5%低下している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前の競合店のオープン以降、来客数が減少したまま戻ってこない。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・タスポ効果は続いており来客数は伸びているが、たばこ以外の弁当やおにぎりなどの売上が前年を下回っている。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・地元の建設業の景気が急速に悪化しており、徐々に来客数に影響してきている。	
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・中旬までの残暑により秋物衣料の動きが悪かったが、中旬以降涼しくなっても状況は変わっていない。	
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・残暑が9月末まで続いた前年と比べ、今年は涼しく季節感がはっきりしているため秋物の売行きは若干良いが、物価高騰による厳しい状況が依然として続いている。	

	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・7月まで比較的堅調だった新車販売が8月から大幅に減少し、改善の兆しがみえない。
	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・個人客への販売は前年並みに推移しているが、法人客については、倒産などによりリース物件を引き上げるケースが増えている。
	その他専門店 [パソコン] (経営者)	お客様の様子	・客は購買意欲があっても、買上点数を抑制する状況が多くみられる。
	その他専門店 [食品](経営者)	販売量の動き	・自社直売での客単価の低下や、得意先からの価格の引下げ要求により、営業利益の確保が難しい状況にある。
	その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・原油価格が下がり始め、景気上昇の期待も多少あったが、急激な天候の悪化や事故米問題による商品回収騒動などにより客の買い控えが顕著になっている。
	その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・ガソリンを1,000円分、500円分、10リットルと小刻みに入れる客が増加しており、財布を気にしながら買物をしている様子が見える。
	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・10月からデスティネーションキャンペーンが始まるが、地震の風評被害により、来客数が伸び悩んでいる。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・前年に比べ既存店ベースで来客数が減少している。
	その他飲食[弁当] (スタッフ)	販売量の動き	・休日の中心街区の人出は減少しており、土、日曜日の来客数は、前年比90%と大幅に落ち込んでいる。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・地震の風評被害や平泉の世界遺産登録の延期が影響して、観光客数が減少している。
	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・宴会、婚礼関係は前年と比べて大きな変動は無いが、レストラン関係はランチの不調により売上が5%の減少、宿泊客数は5~10%の減少となっている。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ガソリン価格は下落傾向にあるものの高値で推移していることから客の財布のひもは緩まず、来客数、客単価共に低下傾向にある。
	都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・建設、不動産、運輸業界の利用者が減少している。また、原材料費の値上がり分を価格に転嫁できないため、利益が圧縮されている。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・個人、団体旅行共に前年より減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・地震の風評被害により観光客が減少し、売上が減少している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・乗客が大幅に減少している。また、客はワンメーターでも距離が短くなるよう節約している様子が見える。
	通信会社(営業担当)	来客数の動き	・売上は前年比で30~40%減少しており、製造業関係は半減している。来客数は前年比で50%減少している。
	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・取引先が会社更生法の適用を申請したという情報が入ってくるようになった。
	通信会社(営業担当)	お客様の様子	・原油が下落傾向とはいえ、客はガソリンや原材料費などの必要経費の膨張を懸念しており、守りの姿勢が強い。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・前年と比べ来客数が10%以上減少しており、底がみえない状況にある。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・若年層の客は増えているが、建築希望時期が2~3年先の物件が多く、受注まで期間が必要となっている。
悪く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・近郊に大型商業施設が出店する度に、商店街の集客力が低下するのを実感している。
	一般小売店[医薬品] (経営者)	販売量の動き	・全体的に商品の動きは悪い。9月は残暑がそれほど厳しくなかったため、虫刺され関連商品が全く売れていない。
	百貨店(経営者)	来客数の動き	・食品部門は堅調に推移しているが、主力の婦人服関連については気温動向など、前年より恵まれているにもかかわらず、来客数の伸びが鈍く、単品購入が目立っている。

スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の買い控えの傾向が続いており、必要な物以外は買わない状況にある。また、食の安全、安心に関わる部分では、事故米やメラミン混入問題が追い討ちをかけている。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・客の節約志向が強まり、買上点数が前年と比べ減少している。ただし、外食を控える傾向が強まっているため総菜だけは好調である。	
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・建設業関係の倒産により、来客数の減少が顕著になっている。	
コンビニ（経営者）	単価の動き	・客単価が前年の93%と低下している。弁当の売上が7月に比べ70%程度と極端に減少しており、単価が低いペーカリー関係が増加している。	
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客は食費や暖房費を優先するため、優先順位が低い衣料品の売行きが悪い。	
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・スーツの単品購入が多く、シャツ、ネクタイなどスーツ以外のアイテムを買わない傾向にある。	
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ガソリン価格の高止まりやタイヤ、オイル価格の上昇、さらには9月から一部車種の値上げもあり、個人、法人共に購買意欲が低下傾向にある。	
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・最近の金融不安の影響が、減車や軽自動車への変更など、客の経費節減の傾向が顕著となっている。	
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・前年比で20%以上の売上の減少が続いており、完全に採算割れしている。	
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、開店休業のような状態が続いており、このままでは廃業も余儀なくされる。	
その他専門店【酒】（営業担当）	お客様の様子	・ガソリン価格が若干低下したものの、店頭や飲食店に客足が戻る気配は無い。また、10月の清酒関連の値上げに伴う駆け込み需要も期待したほどではない。アルコール関連業界だけではなく、社会全体が末期状態の様相を呈している。	
その他専門店【ガソリンスタンド】（営業担当）	単価の動き	・ガソリンの値下げが始まったが、仕入価格よりも価格競争による下落幅が大きく、さらに販売量も前年割れが続いていることから、スタンドの収益は急速に悪化している。また、得意先の倒産が増加しており、与信管理に神経を使わざるを得ない状況となっている。	
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・最近ランチタイムの来客数も減少しており、客の財布のひもはますます固くなっている。	
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・客の様子から、これまで景気の影響をあまり受けていなかった薬局などの業種でも悪くなっている。	
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・来客数の減少に加え、客単価が30%程度落ち込んでいる。	
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・9月は最も景気が悪い時期であるが、例年以上に客の購買意欲が低下している。ガソリン高騰の影響もあるが、客は政治への不信感から様子を見ている状況にあり、出控え傾向が強まっている。	
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・地震の風評被害による悪影響がいまだに続いている。また、世界経済全体が落ち込むなか、外国人観光客が減少している。	
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・売上が全部門で前年を下回り、前月からの売掛未回収金も多いことから親会社の支援を仰いでいる状況にある。	
観光名所（職員）	来客数の動き	・団体、個人客数共に減少している。	
その他サービス【自動車整備業】（経営者）	単価の動き	・客は値上げに非常に敏感で、自動車整備業では原価上昇分を価格に転嫁できないため、経営は圧迫されている。	
企業動向関連	良く なっている	-	
	やや良く なっている		
	変わらない		
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・事故米の転売や、中国のメラミン混入問題などの風評で、食料品の選別が厳しくなり、購入を手控える傾向が強くなっている。
	木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・需給バランスが悪く、住宅部材の価格や需要が改善していない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物価上昇に伴い、客は必要最小限の工事しかやらない状況が続いており、受注額が減少している。

		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・上半期は、売上目標値を上回った月がまだになく、既存契約の継続も危ぶまれる状況にある。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・土木業では公共工事の減少に伴い、従来の土木工事だけではなく、建築や道路舗装、さらにはダリアなどの植物栽培にまで乗り出している。
やや悪くなっている		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少しており、売掛金の回収率も悪くなっている。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年比10%以上の売上減少が、前年の11月から連続して続いている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・自転車操業的な経営状態の取引先企業が増加している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・通信インフラ及び車載端末機器関連の設備投資が一段落し、車の販売も低迷していることから売上が減少している。
		建設業（企画担当）	それ以外	・原材料価格の高騰や不動産デベロッパーの倒産の影響が会社の業績に数字として表れてきている。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・ガソリンや食料品価格の高騰により家計が圧迫され、書籍やレジャーなどへの支出が抑制されている。一部書店では正社員からパートへの切替えが行われ、賞与の支払も行われていない模様である。また、燃料費の高騰と利用者数の低迷により青森・函館間の高速フェリーの運休が決まるなど、多方面で影響がでている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込チラシ、新聞購読数共に安定しておらず、減少傾向にある。経済的事情により購読を中止する客が多い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・数年前に郊外に進出した大手百貨店が撤退を表明するなど、消費はますます沈滞化している。
		公認会計士	取引先の様子	・小売業は相変わらず売上の減少が続いており、底が見えない状況にある。また、建設業も受注の減少が続いており、経営状況は悪化している。
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月から値上げを実施する清酒メーカーが多く、通常であれば駆け込み需要が発生する時期であるが、販売量に大きな動きがない。このような状況はこれまで経験したことがない。	
悪くなっている		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・8月中旬以降の悪天候と気温の低下により桃の品質が低下し、農協への出荷価格が格安となっている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は、北米市場の悪化や国内販売の低迷を受けて、当初計画を下回る状況が続いている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・公共事業などの特需もなく、原材料費の上昇が景気に悪い影響を及ぼしている。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・価格競争のため受注価格の下落に歯止めが掛からず、用紙代の値上げ分を価格に転嫁できない状況にある。
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が、上期（1～6月期）と比べて65～70%と激減している。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気の先行き不安により購買力が減退し、販売数量や価格が読めない状況にある。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
変わらない		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・採用が弱いことには変わりはないが、コンスタントに採用して人材を定着させている企業と、期間労働者など入替を前提に募集している企業が鮮明に色分けされてきている。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・自助努力、改善、工夫をしながら現状を維持しており、大きな景気後退には至っていない。
やや悪くなっている		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・仕事量の減少により、当初の雇用期間を前倒しして解雇する企業や、常用雇用の従業員を解雇する企業が出ている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は平成20年3月から、有効求人数は平成19年4月から前年を下回る状況が続いている。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・原油高による消費の冷え込みから、製造・サービス業を中心に求人の落ち込みがみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・全般的に欠員もしくは短期需要に対応するための求人主体で、事業拡大によるものは少ない。求人意欲も総じて低調であり、フルタイム、パートタイム共に減少幅が本年度に入ってから最も大きくなっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、常用、臨時、パートのいずれも減少し、全数で前年比38.2%の減少となっている。産業別では、減少幅が大きい運輸業、卸小売業、サービス業を始め、すべての業種で減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の減少が続いている。原材料費の高騰や米国などへの輸出の鈍化が影響し、製造業の派遣求人が大幅に減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・依然として新規求人数は前年と比べて減少傾向にあり、ここ数か月は特に減少している。
悪くなっている	人材派遣会社（社員）	それ以外	・各県の労働行政による厳格指導のもとで、取引中断や直接雇用、完全請負化の勧告が大幅に増加しており、ソフトランディングが困難な状況にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・大型流通関係の採用が一段落したことから、求人の動きは小康状態にある。また、原材料費の高騰により、製造業を中心に厳しい状況が続いている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・ガソリン価格が高止まりするなか、客の所得が伸びないため、車が売れなくなっている。車のディーラー関係の広告出稿が減少している。